

目標の進捗状況報告書

(2012年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本シートでの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

対象部局	教職教育研究センター
大項目	4 教育研究組織
中項目	
小項目	4.0.1 大学の学部・学科・研究科・専攻および附置研究所・センター等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものである
要素	教育研究組織の編制原理
	理念・目的との適合性
	学術の進展や社会の要請との適合性
	(KG1) 研究活動の状況
小項目	4.0.2 教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか。
要素	

II. 目標の進捗評価と進捗状況報告(2012.4.30現在の進捗状況報告)

《進捗評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の自己評価を行っている。

進捗評価はA、B、C、Dの4段階とし、2012年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 本学における教員養成の望ましいあり方という観点から、教育学部との関係を明確化するとともに、同学部との連携を図る。	→教員養成を主たる目的とする、所謂目的学部としての教育学部と、一般学部の教員養成を担当する教職教育研究センターという棲み分けを明確にするとともに、実務面での連携が可能となるようは連携を図る。	B	B	B		
2. 教職課程履修者数の急増と業務内容の多様化による過重負担を軽減するために、早急に上ヶ原キャンパスの教育研究組織の改善と神戸三田キャンパスの格差是正を図る。	→上ヶ原キャンパスに専任教員の増員。また神戸三田キャンパスに専任教員及び専任事務職員を配属することによる教育研究組織の充実。	D	D	D		
3. 文部科学省の実施視察に向けて、教職課程の全学的・組織的な指導体制を強化する。	→センター評議会等、教職に関する全学的協議体の活性化(本学における教員養成の望ましいあり方や教職教育研究センターと教育学部との関係等について全学的立場から検討する機会を設ける等)と、学長府との連携の強化(定期的な情報交換の場の設定等)による全学的・組織的指導体制の整備。	B	B	B		
				☆		

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《進捗状況》

目標の進捗状況について次のとおり簡単に説明する。

目標1	教育学部との実務的な連携は、徐々に進みつつあるが、教務機構化の動きの中で、教育学部との棲み分けが流動的になってきている。
目標2	教務機構化と神戸三田キャンパスにおける「コモンズ」設置により、事務体制の再検討が必要となった。専任教員の配属についても、進んでいない。
☆ 目標3	機構化に伴う意思決定の流れの変化や、組織の変化の状況が明確ではないため、連携強化などは、現状維持の状態である。
備考	